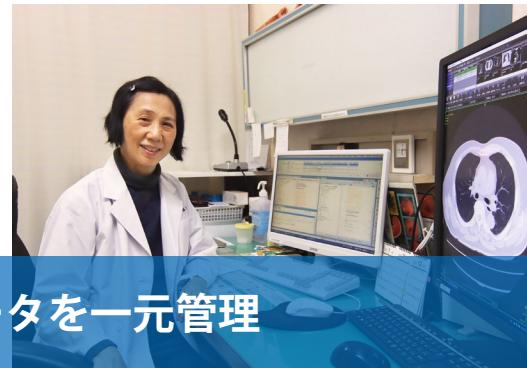


「医療法人社団快生会サンシャイン山口クリニック」は、1978年4月に東京都池袋のサンシャイン60の7階に現院長の父である先代が開院。現在、田口享子先生が院長として20年近く診療を続けています。2015年9月に紙カルテからBMLの電子カルテシステム「Qualis（クオリス）」を導入し、その後2022年10月に「Qualis Cloud（クオリスクラウド）」へと移行。田口享子院長にお話を伺いました。



健診も保険診療も検査データを一元管理

BML電子カルテ導入の決め手と電子カルテ運用

「見やすさと使いやすさを最優先に選びました。患者さんの情報をすぐに共有でき、スタッフ全員がストレスなく使えることが大切。コスト面も現実的で、必要な機能をしっかり備えている点を重視しました。他社も比較しましたが、Qualisは現場の動線に合っていると感じました。

また、検査は同じ患者さんでも、健診で行う場合と保険診療で行う場合がありますが、全ての結果が時系列で見られるのはQualisだけでした。他社のシステムでは健診分と保険診療分が別々にしか見られません。血液検査の結果は比較することが重要ですから、すごく便利だと、他の先生とも話して決めました」。

紙カルテから電子カルテへの移行により、患者さんのカルテを探す時間、主治医意見書などの書類作成時間、処方箋を出すまでの時間が大幅に短縮されました。

「セットを使うと入力もすぐにできます。操作にも戸惑いはありませんでした。インストラクターが稼働前に直接訪問してくれて、丁寧に教えてくれたので、私もスタッフもすごくスムーズに操作を覚えられました。画面もシンプルで見やすく、わかりやすいですね」。

オンプレからクラウドへの移行

オンプレミス版からクラウド版Qualis Cloudへの移行は、さらにスムーズでした。

「いつ変わったのか忘れたぐらい、違和感がありませんでした」。

リプレイスのタイミングでの移行だったこともあり、連動していたシステムもそのまま継続して使用でき、操作も全く問題なかったといいます。移行の決め手は、サーバーが不要となるスペース面、セキュリティ面、そして使い勝手が変わらないという安心感でした。

Qualis Cloud（クオリスクラウド）の活用方法と効果

日常診療では、複数の機能を効果的に活用しています。

「特に『未来カルテ』機能は、検査のセットを事前に入れておくことで、来院時にスタッフが当日のカルテへ適用させ、スムーズに検査を実施できます。時期も指定できるため、漏れなく検査できるのが便利です」。また、『投薬歴』機能も頻繁に活用し、以前に処方した薬を確認したついでにそのまま処方できる利便性を評価してくださいました。

続けて、サポート体制についても「以前、配線トラブルで起動しないことがあり、慌ててサポートセンターへ電話しました。サポートの方は院内の配線状況も全て把握していて、どの部屋にある機器を確認し、何をどこにつなぐか的確な指示をくれました。その通りにすると問題なく起動できました。これまで大きなトラブルもなく、外来患者さんを待たせることもありません。朝早い時間から診療が終わった後の遅い時間まで対応してもらえるので助かっています」と高く評価してくださいました。